

---

# 死神という名の天使

禰孤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死神という名の天使

### 【著者名】

Z6590

### 【作者名】

禰孤

### 【あらすじ】

死神と名乗る女の子。なぜ俺が？楽しい毎日が始まるはずだった俺の幸せは一瞬にして奪われた

## 俺と死神ともう一人の俺？

俺は室田 俊平

ムロタシヨンベイ

今年から高校生。楽しみでわくわく  
だった。のになんだこの今の状況は…！

「早く死になさい」

と田の前にいる女の子が鎌を俺に向ける。なんだかよくわからない  
んだが…

「数分前」

俺は新しい制服でわくわくしながら歩いていた

「室田俊平…」

名前を呼ばれ振り返る。そこには今俺の田の前にいる女の子だ。小  
学生か中学生くらいだ

「お前誰？」

「私は死神」

「は？」

なにを言つてるのや…。

「あなたには死んでもらいます」

と鎌を取り出したのだ。どこから出したのかわからない、気付けば  
女の子が持つていた

「ちょっと待…うわっ」

女の子は話を聞こうとはしない。ただただ鎌を振り回す。俺は必死  
によける。鎌には黒くなつた…血。今までにも誰かを殺していたのか

そして今。逃げ道はない。新しい制服はぼろぼろだ

「なぜ逃げるの」

冷たい田だ

本氣だ

殺される

「や、終わりにしましょ」

女の子は鎌を振り上げる

(ここまでか…)

思わず田をつむる

「……」

あれ？んん？生きてる…恐る恐る田をあけると女の子は氣絶していた

「なんで」

「あなたの力ですよ」

どこからか声がする

「力？」

「やべ、あなたは強大な力を持っている。しかしそれが暴走すると  
とめられなくなる。だからあなたを殺さなければならぬ」

「そんなの俺は！「あなたの命を狙うのはその子だけじゃない。あなた  
の力は田覚めつつある。お氣をつけを」

「どうしたらいいんだ！？」

返事はない…。俺の力？そんなのつて…

「ん…」

女の子が田を覚ます。

「死神だつけ？大丈夫か？」

「いつたいわね…さつさと死んでよー。」

いやそんなこと言われましても…

「鶴田から話は聞いた？」

「ああ」

鶴田つていうのか…。姿はなかつたが

「わかつたでしょ？死んで？」

待て待て、パニック状態だ。俺は死ななきゃいけないのか？世界の為に？

「きやああああああ」

女の子が悲鳴をあげる

「どうした？」

「むむむむむ」

「む？？」

「虫いいいいい」

と俺に抱き付いてくる。虫が嫌いなのか…女の子らしい。体も小さくて、肌が白くて美少女だ。こんな子が本当に死神なのか？服装は…うん、よく漫画にでてくる死神だ。

「虫いやあ」

「大丈夫だよ」

ぽんぽんっと女の子の頭を撫で笑つてみせた。女の子は俺を見上げる。緑色の綺麗な瞳だ

「あ…」

かなり見つめてくる。なんだか吸い込まれそうだ

「えつと…？」

「…………」

「あのう」

「今度…」

「え？？」

「今度は必ず殺す」

ぞくつとした。冷たい目…

「俺を殺してお前は得するのか？お前が本当に死神なら世界がどうなろうと関係ないだろ？」

「関係ある」

「世界が荒れると異空間も歪むの。私達は異空間のためにも世界を守らなければならぬ。私達の柄じゃないけどね、自分達のために」

と女の子が悲しそうな顔で言つ

「そんな…異空間なんて」

つか抱き締められたままなんだけど

「私、人間は嫌いだけどこの世界は好き…なの  
その嫌いな人間に抱き付いてるぞ？」

「えつと「グスンッ…」

泣いてしまつた。

「ごめんな」

とまた女の子の頭を撫でる

「俺を殺す以外に方法はないのか？」

やつと女の子は離れ

「方法がないことは…ない」

と言つた

「じゃあ「けど命懸けよ

「え？」

「今なん…て？」

「戦うのよ、あなたのその力と」

「戦うつて？」

「異世界にいるわ」

どつちにしろ死ぬかもしれない？俺は死ぬ運命なのか？

「あなたが異空間を救つてくれるなら一緒に戦う

「人間嫌いなんだろ？」

「これが私の運命」

風で女の子の髪が靡く。フードが取れた

「…」

こうみるとさつき以上に美少女だ

「…なに」

俺が見とれていると女の子はフードを被り首を傾げる

「い、いや…」

こんな子が死神か。一緒にいたらいつ殺されるかわからない。だけ

ど…戦うしかないんだな。

「わかつた戦おう」

「…………ついてきて」

一数分後—

ある場所に連れてこられた。倉庫？

「あつれ？人間？」

と1人の女の子が俺を見てくる

「うん」

えつ、此処にいるのは…みんな死神か！？男もいる

「大丈夫」

俺が不安なのを察知したんだろう

「ああ」

案外優しい奴なのか？

「こいつを殺らなきゃ」

前言撤去。

「はーーいつ」

みんなが鎌を出す。

「嘘だろ…」

「嘘」

嘘かいっ！！

「みんな室田俊平の力は知ってるよね？」「こいつの力と戦うから手伝つてほしいの」

「…………」

え？みんな黙り込んでしまった

「戦うの…？あれと？」

「死ぬ気？」

そんなにすごいのか…。

「異空間を守るため」

「…………わかつたよ！」

みんな手伝ってくれるそつだ。

「準備「その前に自己紹介しないか?」

「これから共に戦うのに名前も知らないなんて

「お前なんかに名前なんて」

「まあまあまあ、自己紹介しよう?」

「……澪

俺を殺そうとしていた女の子は澪か…かわいらしい名前。

「私は梓アズサだよーっ よろしくねーっ」

女の子だ。服装は「アートの長さが短い…? テンション高めのまあ女の子つて感じ。 一つ年下くらい?」

「時雨シゲレです…」

大人しい感じの女の子。前髪で目が隠れていて顔はよくわからない。この子は同じ年くらいだろう

「僕は零レイ」

クールな感じの男の子だが美男だ。澪と同じ年くらいだ

「俺は雪。よろしくな」

いたつて普通?いや死神つて時点で普通じゃないな。俺と同じ年くらいか

「名字はないのか?」

「まあ」

なんか流された…

「準備しなきや」

準備つてなんの準備…戦う準備か

「いっしきて」

澪に呼ばれる。

「此処…は?」

「武器だらけ?」

「なんでこんなのが?こつらには鎌があるはず

「なあ俺は本当に戦うのか?」

「……なに? 今更」

「いや「はい」、「コレ」と「コレ」」

剣と盾をわたされる。これで戦えってか...

どうなるんだろう?俺

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6590/>

---

死神という名の天使

2010年10月10日17時52分発行